

## 第8回 阿賀川自然再生モニタリング検討会 議事要旨

開催日時：令和7年3月6日（木） 10:30~12:00

場 所：阿賀川河川事務所 1階 会議室

議事次第：1. 開会

2. 挨拶

3. 議事

(1) 中流域自然再生事業モニタリング計画について

- ・ 中流域自然再生事業概要
- ・ 中流域自然再生事業モニタリング計画について
- ・ 阿賀川自然再生計画書（案）の更新について

(2) 施工時の環境配慮等に関する取組内容について

- ・ 施工時の環境配慮等に関する取組内容について
- ・ 阿賀川自然再生計画書（案）の更新について

(3) 阿賀川河川事務所における外来種対策の取り組みについて

(4) その他

4. 閉会

### ○議事

(1) 中流域自然再生事業モニタリング計画について

(委員 A)

- 植物指標種のうち、マルバヤハズソウは礫河原以外の環境でも普通にみられる種である。指標種として選定しなくても良いと思う。

(事務局)

- 過年度の河川水辺の国勢調査結果の整理の中で、礫河原性とされており、今回も選定した。また、阿賀川自然再生計画書（R7.3）に既往の植物調査結果が整理されており、この中にマルバヤハズソウも含まれていることから、上流域事業において指標種に選定された。

(委員 A)

- 承知した。過去の経緯を踏まえ、指標種に入れておくことで問題は無い。

(委員 B)

- 鳥類調査では、上流域の調査で実施されていた熱赤外線撮影はしないのか。

(事務局)

- 鳥類におけるモニタリング調査計画（案）における任意観察の中で調査を行う。

(委員 C)

- オオカワヂシャが近年増加している。駆除についても検討してもらいたい。

(事務局)

- 状況に応じ適切に対応する。

(委員 D)

- 自然再生の工事を実施しても、数年で元の状態に戻ってしまうのではないか。川底は「はまり石」になっている。定期的に河床を攪拌するなどの対応をしてはどうか。
- かつて、ウケクチウグイの産卵場が下流の立川橋周辺にあった。産卵時期の前に河床を攪拌することができるか。

(事務局)

- 阿賀川自然再生計画書 (R7.3) に示しているが、平均年最大流量規模の出水で攪乱が起きることを想定した計画である。出水に伴う攪乱状況の把握については洪水時モニタリング調査で確認していく。

## (2) 施工時の環境配慮等に関する取組内容について

(委員 A)

- 重要種・貴重種に対する保全対策検討について、調査の適切な実施、保全対策の妥当性についてはどのように確認していくのか。

(事務局)

- 本検討会の委員の皆様のご意見を伺いながら進めていく。

(委員 E)

特定外来植物への対応について、オオキンケイギクは根、種子で増える。アレチウリは種子で増えるので、植物の種類ごとに適切な駆除の時期を判断すべきでないか。

(事務局)

- 本検討会の委員の皆様のご意見を伺いながら進めていく。

## (3) 阿賀川河川事務所における外来種対策の取組みについて

(委員 F)

- セイヨウアブラナは、なぜ問題となっているのか。説明いただきたい。

(事務局)

- 根が太く、ネズミやモグラが根を食べに集まり、それらを捕食するキツネが集まり、堤防に穴をあけるなどの影響を及ぼすとされている。

#### (4) その他

##### ■ オキナグサに関する取り組みについて

(委員 A)

- 現状では、オキナグサは絶滅危惧種というだけでなく、地域に根差し、風土に合った種である。ある地区ではオキナグサへの関心がとても高く、「オキナグサを守る会」などが子供も巻き込んで保全活動に取り組んできた。

##### ■ 阿賀川の河道内における雪捨て場について

(委員 A)

- 今年の大雪で、阿賀川の雪捨て場には市街地からの大量の雪が運び込まれている状況である。その雪の中にはゴミの他、植物の種子も含まれていると思われ、雪解け後、大量の外来植物の種子が発芽し、阿賀川で繁茂するのではないかと懸念している。雪解け後、どんな影響があるか確認してもらいたい。また、できれば持ち込まれても生育しないような川づくりについて考えてもらいたい。

(事務局)

- 阿賀川河川事務所では会津若松市の雪捨て場として占用を許可しており、主な排雪場所は本郷大橋、蟹川橋としている。委員の意見を踏まえて、雪解け後に委員の皆様も一緒に確認していただく。今後の方針についてはあらためて相談させていただく。

以上